



目次／連月カレンダー／偉人のことば … 1

教えて、先生! … 2

「グローバル教育を実践するポイントは何ですか？」

Y's NEWS／吉田のことば … 5

学校法人会計を読みこなそう(中級編) … 6

第3話 経営指標は平均値を狙うべき?!

School Management Review … 8

Society5.0に向けた人材育成

2018年8月吉日  
No.51

## 2018年8月

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

## 2018年9月

月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30



## 偉人のことば

小さいことを積み重ねるのが、  
とんでもないところへ行く  
ただひとつの道だと思っています

(イチロー)

最初に自転車に乗れた日。

最初にさかあがりできた日。

難しい、絶対に解けないと思った問題が解けた日。

憧れの学校、憧れの会社に入った日。

大好きなあの人に気持ちを通じた日。

そんな日はある日突然やってくるように見えて、

本当はその前にたくさんの「小さな積み重ね」があるのでしょう。

その積み重ねは、その日を迎えた人にしか分からない、

辛さと苦しみの日々であったかもしれません。

今や世界にその名をとどろかせる天才野球選手も、

小さな積み重ねを続けてとんでもないところに到達したのですね。

この素晴らしいひとことに、ひとつだけ付け加えるとすれば、それは

「とんでもないところ」がどこなのか、を明確にイメージすることが

そこにたどり着くためには必須であろう、ということくらいでしょうか。

# 教えて、先生！

## 「グローバル教育を実践するポイントは何ですか？」



西大和学園高等学校 校長 中岡義久 さん

大学卒業後、開校したばかりの西大和学園に入職。3年目で学年部長に就任され、多くの卒業生を指導。2016年度より現職。

今回は「世界を舞台に活躍できるリーダー」の育成に力を入れられている西大和学園高等学校にお伺いし、「グローバル教育を実践するポイントは何か」を、卒業生である私から、恩師であり、校長である中岡先生にお伺いいたしました。(インタビュアー:長森)

2000年当時、海外で暮らす日本人は約81.1万人でしたが、2017年には約135.2万人にまで増加しています(外務省「海外在留邦人調査統計」より)。そして、日本国内で働く外国人は10年前の2008年には約48.6万人でしたが、2017年には約127.8万人にまで増加しています(厚労省「外国人雇用状況調査」より)。多様な文化や言語をもった人たちと一緒に働くことは今や珍しくなくなってきました。

激変の時代を見据えて、2020年に始まる教育改革では、「自分で考え、表現し、判断し、実際の社会で役立てる」ために「主体的・対話的で深い学び」を取り入れたアクティブラーニング型の授業が実施されます。

### ●日本一の学校にしたい！

一昔と変わらず、今も学内に活気が溢れていますね。

開校当時は教員の平均年齢も20代と若く、とても活気に溢れていたと思います。当時から「社会で活躍するリーダーを育てたい」、「生徒のためなら何でもやる」という先生が多かったですし、今も「よりよい学校にしたい」、「日本一の学校にしたい」と思っている先生がたくさんいるからだと思います。

一学校行事もたくさんありますよね。

学校行事は日本一多いのではないかと考えています。中学校ではファームステイ、富士登山、スキースクールやアメリカグローバル研修プログラムなどたくさんの行事をしています。それだけでなく、裁判傍聴や化石採集など数多くの多彩な体験学習もしています。

一昔から研修旅行は「海外」というのが特徴ですね。

開校当時の1980年代から高校の修学旅行は中国に行っていました。当時中国のGDPは日本の6分の1程度でしたが、現地の学生たちの熱意は大変なもので、「この国を豊かにするんだ」という情熱に溢れていました。

一現在、修学旅行先はどうなっているのですか。

中学校の修学旅行では、例年、アメリカのユタ州に行くことにしています。ここでは1週間程度ホームステイをして、中学3年間の英語学習の成果を試し、現地校での交流やホストファミリーとの生活を通じて、国際人としての第一歩を踏み出す機会としています。

高校ではインドコース、ベトナム・カンボジアコース、シンガポール・マレーシアコースの選択制となっており、勢いと若者のハングリー精神のあるアジア圏の国々を訪れ、歴史と現状を学んでいます。21世紀はアジアの時代です。学校交流等でバックグラウンドが全く異なるがチャレンジ精神に溢れた同世代の高校生たちと触れ合うことで、生徒たちには、自らの意欲を高めると同時に、多様な価値観を受け入れ、活かす力を高めてほしいと考えています。

一修学旅行先も時代に合わせて変えておられるのですね。在学時代と比較すると大きく変化していて驚きました。

修学旅行先のひとつ、インドの首都デリーの衛星都市であるグルガオンのサイバーシティには高層ビル群が集まり、IT企業中心に世界有数の企業の拠点があってインドの凄まじい勢いを感じることができます。

インドの教育に目を移すと、小学校では毎日プログラミングの授業を行っており、高校生ぐらいになると一人でプログラムを組み上げてしまう生徒がたくさんいます。GoogleやMicrosoftのCEOがインド出身なのはいまや周知の事実でしょう。



インドの首都デリーの衛星都市、グルガオン

## ●「体験」の重要性

—実際に行ってみたいと分からないことがたくさんありそうですね。その他に感じられたことはありますか。

インドでは、高額紙幣が廃止され、屋台や出店でも電子決済サービスが広がっています。紙幣や硬貨を使うことがなく、スマホで「ピッ」とすれば会計が済んでしまうので、紙幣や硬貨による決済が中心の日本とは大きな違いを感じます。

実際に現地で自分の目で見て、肌で感じることで初めて自分の経験として生かすことができると考えています。

—そういった経験をさせることがグローバルリーダー教育の第一歩なのでしょうか。

日本国内にいと世界の事情は分からないので、実際に行って体験することが大切です。自分たちの今後を考える機会を持たせ、多感な時期にさまざまな経験をさせるように中高生を指導しています。

本校では、海外の第一線で活躍されている日本人に講演をいただくこともあります。講演後の質問タイムでは質問が終わり、全体会終了後も講演者の方に残っていただき、さらに1~2時間、生徒の質問にお答えいただくこともあります。それでも質問は止まず、最終的には講演者とメールでやり取りをさせていただいていたこともあります。「質問して考えを聞きたい」、「自分の意見を聞いてもらいたい」という生徒が育ってきているのだと感じます。

また、本校では毎年50名ほどの希望者が中3の1月から3月にかけて3ヶ月間留学をします。現地校に通い、アメリカの友人やホストファミリーと過ごすことで、親のありがたみや周囲の支えに気づき、自立して戻ってくる生徒がたくさんいます。

—日本だけで過ごしていると決して気づかないですね。これだけさまざまな体験をしてもらうには先生たちも大変ではないでしょうか。

先生たちもチャレンジしたい、もっとこんなことを体験させたいという先生がほとんどです。実は、先生方から提案が止まないといった方が正しいのかもしれませんが。

本校では、生徒からの提案もたくさんあります。7年前にICT教育の一環としてiPadを導入したのですが、導入を希望して提案書を作成してきたのは生徒だったんです。

—教育内容にかかわるところにも生徒自身が提案できるなんて驚きです。

提案を受けた学年の先生たちが生徒の声を吸い上げ、プロジェクトチームを立ち上げてくれました。その後職員会議にかけて検討をすすめ、最終的に全教室に電子黒板とWi-Fiを配備してクラウド利用の環境を整え、ICTを活用した様々な取り組みが可能となったんです。



学校の受付には世界時計が飾られている

## ●伝統は「つくるもの」

—生徒の提案力があることにもびっくりですが、先生たちの熱い思いは今も変わっていないのですね。何か秘訣のようなものがあるのですか。

教員は皆教育が大好きなので、気が付くと時間が過ぎてしまった、なんてことも多いと思います。私も同僚の教員たちとともに、生徒の学力向上、人格形成、さらに忍耐力や体力の養成などについて、「どのような方法が効果的か」と日夜遅くまで真剣に話し合っていて、気がついたら終電を逃してしまった…なんてこともかつてありました。

一確かにそうかもしれないですね。夏休みや冬休みのような長期休暇中も参加自由な補講や演習が予定されていて、やる気のある生徒にとってはこれ以上ない環境でした。学外への研修なども沢山あったのでどれに参加するか悩んだものです。



西大和学園(正門前から)

学年部長に大きな裁量権が与えられていることが大きく関係しているのかもしれませんが。本校では体験学習や合宿などの取り組みも学年部長に任せており、学年部長がその学年の生徒たちの進路や成績、人間力の形成などに全責任を持ちます。

そのためには、学年部長は担任の人事にも関わります。年度末には学年部長全員が集まって来年度の人事を決める会議が何日も続きます。校長や教頭は調整役として参加します。管理職としては、生徒を指導する「担任の先生」の力が最も発揮されるように学年の責任を持つ学年部長が担任を指名することは当然のことだと考えています。

一度チームになると来年もこのメンバーで頑張ろうという気持ちが大きくなり、学年部長は担任や副担任をサポートしますし、学年団の教員は他学年よりもっとよい教育を提供しようと切磋琢磨しています。

一確かに西大和学園の先生は皆さん熱かったです。



職員室のすぐ横にある質問ブース

私は、本校教員は日本一の教員集団で、学園の「宝」だと考えています。生徒たちが自分のやりたいことを見つけ、全力で取り組み、才能をさらに磨いて、トップレベルの知性と感性を養っていくためには教員の力が不可欠です。

生徒たちも先生たちが頑張っている姿に刺激を受け、さらに頑張ろうとします。質の高い授業を担保することはもちろん、生徒のニーズに合わせた教育を実現するためにも、教員の「熱さ」はとても大切です。

一今後の学園の目標をお聞かせください。

伝統は守るものではなく、つくっていくものだと思っています。なのでこれまでの教育内容に納得したことはありません。もっと良く出来るのではないかと、もっと生徒を成長させることができるのではないかとと自問自答する日々です。

創立して30数年の若い学校なので立ち止まることなく、先生たちのやりたいことが実現でき、生徒たちを「プラチナ人材」として世に送り出す学校でありたいと考えています。



学園の将来について熱く語っていただきました。

#### <編集後記>

在学中は、「休みが少ないなあ」、「補講や模試が多いなあ」と思うとともに、新しいことには憶することなくチャレンジする先進的な学校であったと記憶しています。卒業してしばらく経った母校を訪れて感じたことは、いまや「日本一何にでも“チャレンジできる”学校」ではないかということです。

修学旅行先は「世界での活躍」を意識した訪問先であり、中高生のうちにぜひ体験すべき内容であると思いました。若いうちに何にでもチャレンジできる学校は羨ましくもあり、誇らしくもありました。

そして何より先生方が20年前よりもさらに「熱く」なっており、生徒思いな指導を続けられていることに感動しました。

チャレンジすることを通じて新たな伝統をつくっていく—これこそがグローバル教育の真骨頂なのかもしれません。

(文:長森将宏)



～学校経営セミナー開催のお知らせ～

## 総額人件費管理法

～人事の課題を数値から読み解く～

学校法人の経営課題の中でも特に重要かつ深刻なのは「人事」に関する課題ではないでしょうか。教職員数、給与水準、雇用形態、働き方…さまざまな人事の課題は、人件費に如実に表れます。人件費管理を通じて人事管理を実現しましょう。皆様のご参加をお待ちしております。

<日時>2018年9月14日(金)14:00～17:00

<受講料>お1人様5,000円(消費税込)

<場所>NSEリアルエステート梅田店

プレミアムパスポート対象講座です！

(〒530-0057 大阪市北区曽根崎2-5-10 梅田パシフィックビル6階

／JR大阪駅・地下鉄梅田駅より徒歩5～6分)



## 吉田のことば

ワイズコンサルティング代表の吉田が、よく口にする言葉をご紹介します。1面の「偉人のことば」を目指しながら…？！

## たのくるしい

夢中になれる仕事があるのは本当に幸せなこと。私学経営を支援するこの仕事に出会えてよかった…私はいつも思います。でも、時にはしんどいこともあります。そりゃそうですよね。どんな仕事であってもきっとそうですよ。楽しさと苦しさは一緒に、あるいは交互にやってくるもの。仕事は楽しく苦しいものなんだ、それこそが幸せなんだ、と気づかされた言葉がこの「たのくるしい」という言葉。口にしていたのは森脇健児さん。皆さんはご存知でしょうか？芸能界をジェットコースターのように浮き沈みした彼の、含蓄あるこの言葉が私は大好きです。

—— 雷は、落ちてからでは遅い ——

Amatellus  
総合気象GIS アマテラス

# 大切な子供たちを 様々な気象災害から守ります

登下校の  
安全確保

休校・帰宅の  
判断や対策

屋外行事や  
クラブ活動

修学旅行・  
遠足など



事前に学校、メインの通学路や郊外のクラブ活動練習場などを登録しておくことも可能

気象庁の業務用気象情報を利用して、**正確で、リアルタイム、ピンポイント**の気象状況(天気)がわかります

**早い** 「5分に1回の更新頻度」でゲリラ豪雨等、急激な気象変化を通知

**詳しい** 雨・雷・風・気温などの予報が「いつ、どこで、どのくらいか」まで詳しく把握可能

**きめ細かい** 指定の場所の気象変化を「1kmメッシュ間隔」というきめ細かさで予測

※一般的な気象予測は2時間更新・20kmメッシュ間隔



# 学校法人会計を読みこなそう(中級編)

## 第3話 経営指標は平均値を狙うべき？！

2017年度(平成29年度)決算が終了して早4ヶ月が経過しました。決算書が完成すると、ほどなくして理事会での報告と承認が行われますが、その際、おそらく多くの学校法人では「経営指標」による経営分析がなされることと思います。弊社ではその経営分析のお手伝いをさせていただくことが多いのですが、学校法人によってその形式は様々です。理事各位の理解が促進されるよう、表示形式には相当の工夫を凝らしながら、理事会資料を作成させていただいております。

ただ、使われる指標については法人ごとにそれほど大きな差があるわけではなく、人件費比率等、通常用いられる指標は固定的、と申し上げてよいでしょう。

そして、そのような指標の中で特によく用いられるのは本連載の前号でもご紹介した、日本私立学校振興・共済事業団が設定された指標群です。同事業団は「今日の私学財政」という統計書を毎年発行されており、当該書籍に掲載される指標は学校法人経営指標として高い認知度があるものと考えられます(次頁表参照)。

財務会計に明るい方であれば別かもしれませんが、決算書の数値はなかなか理解しがたいものです。それを何とか分かりやすく示すために、資料作成に工夫を施すわけですが、その工夫の一つは「比較対象を用意する」ということではないでしょうか。

例えば「今年の人件費は1億円でした」というだけでは、それがよいことなのか、悪いことなのかよく分かりません。しかし、「前年は1億1千万円でした」とか「収入は2億円でした」などといった情報があれば、なるほど、前年よりも1千万円減ったのか、ということが分かり、収入の増え方や減り方とも比べながら、それがよいことなのか悪いことなのか判断することができるようになります。この場合における「前年の情報」「収入の情報」が先ほどの「比較対象」にあたる情報であり、決算書の理解を深めるためには重要な役割を果たしています。

そして、比較対象があれば理解が深まるという観点で、多くの場合に活用されるのが「平均値」です。先にご紹介した「今日の私学財政」には全国平均や都道府県別の平均値、さらには学校規模別の平均値まで掲載されていますから、理事会で決算の良し悪しを判断する際に、自校園の数値とともにそれらの平均値を比較してもらうべく両者の数値を並べて掲載することがあるのではないのでしょうか。弊社の経験では、このようなことはかなり多くの学校法人でなされているものと実感しております。

ところで、決算への理解を深めるためのこの「平均値」というものは、当然ながら「事実の累積」で導出されたものです。すなわち、統計の対象となっている学校法人の情報をすべて積み上げて、ある年度の平均値を計算するわけです。平均にはこのように「事実の縮図」としての意味はありますが、それが「良い」「悪い」と意味づけできるわけではないことはご承知いただけることと思います。

今回の連載タイトルは「経営指標は平均値を狙うべきだろうか、いやそんなはずはない」という反語が含まれています。そしておそらく、こんなことは今さら言うまでもなく、この記事をお読みの皆様もご承知のことでしょう。

しかしながら、学校経営にどっぷりと浸かっていく中で、当初は当然だと思っていたことがそうでなくなることもあるのが何とも怖いところです。人件費比率の全国平均は64%(※)、と聞くと、無条件にそちらに近寄らねばならないと感じてしまい、そのための施策を考察する…ということになってはいないでしょうか。これは本来の学校経営ではありません。人件費比率を平均値に近づけることは何らかの目的があつてこそ、です。もともとはそのつもりだったのに、気づけば手段が目的化している、ということは意外とよくあることです。

### 弊社発行小冊子「学校経営ブックレット」好評発売中

学校経営ブックレットNo. 1

学校法人の決算書を読み解く ～新会計基準もこれでバッチリ！～

2017年6月刊行 A5版/全36ページ 定価250円(税別・送料別)

学校経営ブックレットNo. 2

学校における働き方改革 ～長時間労働は正のポイント～

2017年11月刊行 A5版/全25ページ 定価250円(税別・送料別)

お申込みは[info@ysmc.co.jp](mailto:info@ysmc.co.jp)または06-6484-7513まで。



ここまでの話をいったん整理しておきましょう。決算の理解を深めるため、比較対象を準備することは有意義なことです。そして、その比較対象としていわゆる業界平均を用いることも同様に有意義なことと言えます。ただし、それはあくまでも比較対象であって、目指すべき指標値ではないことに留意が必要です。たくさんの学校法人の事実を積み上げたとしても、それが貴法人の目指すべき姿を示すものには決してなり得ません。

それでは目標値はどのように設定すればいいのでしょうか？こうやって整理してくれば、その答えもおそらく簡単に出ることでしょう。そう、それは「自分たちのなりたい姿」から導出するよりほかないのです。

今後10年、あるいは20年を見据えた場合、貴法人は社会においてどんな存在でありたいと思われるでしょうか。私学には必ず建学の精神があり、理想とされる存在感がそこに書かれていることもあるでしょう。仮に書かれていなくても、将来に向けて自分たちがどうありたいかということについて考え、結論を導くことはひとつの経営体として必須です。そのあるべき姿が中期のビジョンへとつながり、単年度の行動計画へとつながっていくのです。例えば、本情報誌の今月号の特集記事にあったような「グローバル教育」が自校園の最重要課題であると決まったなら、それをどうやって実現するのかを考え、そのために必要なお金の使い方を考える…これこそが未来志向の予算編成です。

そうやって予算編成ができれば、先ほどから見てきた決算書の分析や理解促進のための「比較対象」は、より適切なものを準備することができます。その比較対象とは「予算値」そのものです。予算と実績を比較することで、予定していた行動ができたのか、すなわ

平成28年度 財務比率比較表（高等学校法人）

区		分		本法人	全国平均
1	固定資産比率	固定資産	固定資産		85.8
2	有形固定資産比率	有形固定資産	有形固定資産		66.0
3	特種固定資産比率	特種固定資産	特種固定資産		
4	流動資産比率	流動資産	流動資産		
5	固定負債比率	固定負債	固定負債		
6	流動負債比率	流動負債	流動負債		
7	内部留保比率	内部留保	内部留保		
8	運用資産比率	運用資産	運用資産		
9	純資産比率	純資産	純資産		
10	繰越収支差額比率	繰越収支差額	繰越収支差額		
11	固定比率	固定	固定		
12	固定長期適合率	固定長期	固定長期		
13	流動比率	流動	流動		
14	総負債比率	総負債	総負債		
15	負債比率	負債	負債		
16	前受金保有率	前受金	前受金		
17	退職給与引当特定資産保有率	退職給与引当特定資産	退職給与引当特定資産		
18	基本金比率	基本金	基本金		
19	減価償却比率	減価償却	減価償却		
20	積立率	積立	積立		

区		分	
1	人件費比率	人件費	人件費
2	人件費依存率	人件費	人件費
3	補正人件費依存率	補正人件費	補正人件費
4	教育研究経費比率	教育研究経費	教育研究経費
5	管理経費比率	管理経費	管理経費
6	借入金等利息比率	借入金等利息	借入金等利息
7	事業活動収支差額比率	事業活動収支差額	事業活動収支差額
8	基本金組入後収支比率	基本金組入後収支	基本金組入後収支
9	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金	学生生徒等納付金
10	寄付金比率	寄付金	寄付金
11	経常寄付金比率	経常寄付金	経常寄付金
12	補助金比率	補助金	補助金
13	経常補助金比率	経常補助金	経常補助金
14	基本金組入率	基本金組入	基本金組入
15	減価償却額比率	減価償却額	減価償却額
16	経常収支差額比率	経常収支差額	経常収支差額
17	教育活動収支差額比率	教育活動収支差額	教育活動収支差額

▲「今日の私学財政」より

ち「理想とする姿に近づいたのかどうか」というふう  
に決算書を読み解くことができるというわけです。

経営指標は経営状況の把握にはとても便利なものですが、便利さゆえの落とし穴もあるものです。そのひとつがこの「比較対象」に潜んでいるのではないのでしょうか。できれば貴法人でも予算編成をより厳格に行ったうえで、予算との比較に積極的な意味を見出せるようにされてはいかがでしょうか。最強の決算分析は「魂のこもった予算との比較」によって実現できることをぜひ覚えておいてくださいね。

※平均値として、「今日の私学財政」より平成28年度・高等学校法人の数値を引用。

今回のまとめ

- ①決算書の理解を深めるためには比較対象を準備するとよい
- ②平均値は自校園の実績との比較対象でしかないことを強く自覚しよう
- ③比較対象として最も有用なのは「魂のこもった予算」である

# School Management Review

## Society5.0に向けた人材育成

先日、文部科学省から「Society5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会」なる名称の情報発信がなされていました。

Society5.0、ご存知ですか？

そもそもSociety5.0とは何ぞや、という点については内閣府HPに以下の通り、記載があります。

Society 5.0とは

サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)。

狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されました。

そして、そんなSociety5.0で活躍する人を育てるための人材育成、というのが冒頭ご紹介した記事のテーマのようです。

掲載されている資料にはこんなことが書かれています。

学校が変わる。学びが変わる。

⇒Society5.0における学校(「学び」の時代)へ

- ・一斉一律授業の学校  
→読解力など基盤的な学力を確実に習得させつつ、個人の進捗や能力、関心に応じた学びの場へ
- ・同一学年集団の学習  
→同一学年に加え、学習到達度や学習課題等に応じた異年齢・異学年集団での協働学習の拡大
- ・学校の教室での学習 →大学、研究機関、企業、NPO、教育文化スポーツ施設等も活用した多様な学習プログラム

この資料の記述では、「社会構造が変われば、学校での教育内容も当然変わってきますよね」…そんなふうにも読み取れます。

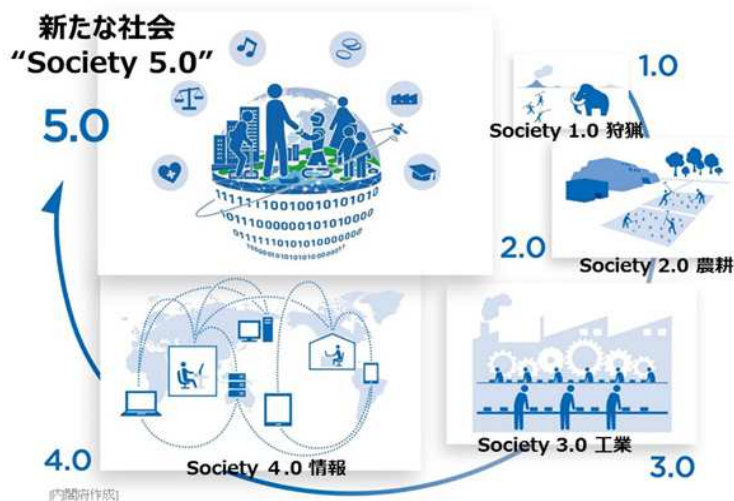
狩猟社会から農耕社会へと変化したとき、あるいは工業中心から情報中心の社会へ変化したとき、それぞれにおいて活躍する人材のイメージは確かに大きく変化したことでしょう。

そして、今回の社会変革、すなわちSociety5.0への変化においても、当然同様のことが起きるとするのは想像するに難くありません。

その中で、学校は子どもたちのどんな育ちを目指すのか。単なる高学歴への進学や有名企業への就職だけでは測ることができない、新たな物差しが登場してくるのかもしれない。

そして、それが今後の学校選択において重要な要素となる、かもしれません。

御校ではSociety5.0への準備はお済みでしょうか。この機会に一度考えてみてもいいのではないのでしょうか。



(弊社ブログ「寝ても覚めても学校のこと。」より2018年6月14日付記事を改編し掲載)

## 学校経営のコンサルティングサービス

### 事業計画

「なりたい学校になる」  
ための取組を支援します。

### 研修・人事制度

「一枚岩の組織に成長する」  
ための取組を支援します。

### 財務・会計

「学校財産を有効活用する」  
ための取組を支援します。



未来へつなぐ、夢がある。  
株式会社ワイズコンサルティング／ワイズ税理士・診断士事務所

TEL (06) 6484-7513 FAX (06) 6484-7518 E-mail: info@ysmc.co.jp  
URL: <http://www.ysmc.co.jp>(会社) <http://www.ystax.jp>(事務所)  
Facebookページ: <https://www.facebook.com/ysconsult>

